

文化行政の法体系

～ 文化審議会の位置づけ ～

【文化行政の法体系】

文化芸術振興基本法（H13年12月制定）

文化芸術に関する活動を行う人々の自主的な活動の促進を基本に、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進、心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を旨とする（議員立法）

文化芸術の振興に関する基本方針（法第7条。概ね5年間を見通して策定。）

第1次基本方針の策定：H14年12月閣議決定

第2次基本方針の策定：H19年2月閣議決定

《重点的に取り組むべき事項》

- | | |
|---------------------------|----------------|
| ①日本の文化芸術の継承、発展、創造を担う人材の育成 | ④地域文化の振興 |
| ②日本文化の発展・国際文化交流の推進 | ⑤子どもの文化芸術活動の充実 |
| ③文化芸術活動の戦略的支援 | ⑥文化財の保存・活用の充実 |

富山県民文化条例（H8年9月制定）

「国民文化祭とやま'96」（H8）等による県民の文化に対する関心の高まりを受け、県民が文化の担い手であることを基本として文化を振興し、ゆとりと豊かさが実感できる「ふるさと富山」の創造を旨とする

富山県民文化計画（条例第8条。概ね10年の計画期間）

平成10年4月 「富山県民文化計画」策定

平成18年10月 「新世紀とやま文化振興計画」策定

《基本目標》「富山から世界へ 人と文化の輝く『元気とやま』の創造」

- 《施策の柱》
- ・文化活動への幅広い県民の参加
 - ・質の高い文化の創造と世界への発信
 - ・文化と他分野の連携

富山県文化審議会（条例第24条）

文化の振興に関する基本的事項その他文化の振興に関し必要な事項を調査審議委員は、30名以内で、教育委員会の意見を聴いて知事が任命（任期2年）

富山県芸術文化振興基金条例（S57年4月施行）

芸術文化の振興を図るため、基金（関西電力株式約52万株）の運用から生ずる収益（約26百万円）を芸術文化関係団体の活動費の助成に充てる旨を条例に明記

平成20年度の主な本県文化関係事業

新世紀とやま文化振興計画（平成18年10月策定） ～ 富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造 ～

文化活動への幅広い県民の参加

身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実

- ①近代美術館らく楽魅力アップ事業 580万円
（多言語による音声ガイドの導入、多様な世代ごとの美術鑑賞講座の開催等）
- 魅力ある企画展の開催 9,031万円
（日展100年展、AIGコレクション展など）
- ②ふるさと文学魅力推進事業 350万円
・検討委員会の設置・ふるさと文学を振興する方策の検討
・越中文学展の開催支援
- 公立文化ホール活性化事業 1,600万円
（ネットワーク、メセナ、出前公演の支援）

文化の創造への支援

- 地域文化力向上・活性化支援事業 500万円
（地域の文化資源を活用した取組みを支援）
- とやま舞台芸術祭開催事業 2,000万円
- 県民芸術文化祭開催事業 1,900万円
- 芸術文化指導者招へい事業 567万円
- 美の祭典 越中アートフェスタ開催事業 500万円

文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大

- ③内山邸文化の魅力再生事業 2,000万円
（表門、主屋等の保存修繕、④月見会の開催等）
- とやまの芸術家発信普及事業 650万円
（子ども、障害者、高齢者向け等の公演）

次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実

- ④第1回とやま世界こども舞台芸術祭開催事業 6,700万円
- 子どもの読書活動推進事業（教委） 290万円
- 学校文化活動推進事業（教委） 1,618万円

質の高い文化の創造と世界への発信

世界的な舞台芸術拠点づくり（舞台芸術特区 TOGA 構想の推進）

- 舞台芸術特区人材育成事業 2,300万円
（⑤利賀演劇国際シンポジウム、⑥演劇人コンクール等）
- ⑦利賀舞台芸術創造・発信事業 1,500万円
（世界に誇れる利賀作品の国内外公演、ロシア、韓国との国際共同制作事業）
- 利賀芸術公園定期公演（劇団 SCOT）開催事業 500万円
- 世界演劇祭「利賀フェスティバル」開催事業 3,000万円

特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信

- ⑧第1回とやま世界こども舞台芸術祭開催事業[再掲] 6,700万円
- とやま室内楽フェスティバル開催支援事業（知政） 300万円
（世界的ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルク氏を記念したコンサートやセミナー開催を支援）

富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信

- ⑨世界文化遺産登録推進事業（知政） 900万円
- ⑩世界文化遺産推進事業（教委） 350万円
- ⑪立山カルデラ魅力再発見事業（土木） 300万円
- とやま未来遺産再生・発信事業（知政） 400万円
- ⑫とやまの未来・文化力活用事業 100万円
（富山大学と連携した文化力活用の調査研究及びシンポジウムの開催）
- 文化財保存整備事業（教委） 1億1,000万円
- 景観づくり重点地域支援事業（土木） 580万円
- 散居景観保全事業<主県>（農林） 750万円
- 散居村ミュージアム支援事業（農林） 890万円

文化と他分野の連携

文化振興と観光振興

- ⑬とやま滞在・体験型観光モデル事業（商労） 400万円
- とやまの『みち観光』創出事業（土木） 1,200万円
- ⑭産業観光魅力創出促進事業（商労） 400万円
- ⑮メディア連携誘客促進事業（商労） 250万円

文化を活かしたまちづくり・地域づくり

- 地域文化力向上・活性化支援事業[再掲] 500万円
- ⑯「くらしたい国、富山」創造ネットワーク事業（知政） 1,000万円

とやまの食の魅力のアピール

- ⑰「越中とやま食の王国」づくり事業（農林） 4,679万円
- とやま食育運動推進事業（農林） 1,930万円

文化を活かした産業の振興

- ⑱感性価値創造デザインシンポジウム開催事業（商労） 100万円
- ミラノデザイン交流支援事業（商労） 200万円
- 産業デザイン経営塾支援事業（商労） 100万円
- 富山プロダクツ選定事業（商労） 200万円
- 富山県デザイン展等開催事業（商労） 969万円

情報通信等技術を活用した文化の創造と発信

- 富山県映像センター運営事業（教委） 870万円
- 生涯学習情報提供ネットワーク事業（教委） 1,431万円

注）太字は、元気とやま創造枠

※所管部局名のない事業は、生活環境文化部所管事業

㊦ 近代美術館の魅力向上について

近代美術館魅力向上のための方策について検討する「近代美術館魅力向上検討委員会」を平成19年5月に設置、以後4回にわたり審議を行い、8月に報告書を提出。

総論（⇒3つの視点）

- ①「質（品格）を保ち」ながら「より多くの人が集う」賑わいのある美術館
- ②わかりやすく親しみのもてる、県民と対話し交流する美術館
- ③県民の創造力を刺激し、富山県の豊かな芸術・文化を切り拓く美術館

各論（⇒「当面の施策」と「中長期の課題」に分けて提言）

<当面の施策>（主なもの）

| 課 題 | 施 策 |
|-------------------------|--|
| (1) 展示 | |
| ・常設展示「むずかしい」への対応 | キャプション、解説パネル、解説カードの工夫 |
| ・常設展示「変化に乏しい」への対応 | 教科書掲載の作家シリーズ展 |
| ・企画展示(近美らしい企画、大型企画) | 近美らしい企画展(新しい美術分野等) |
| ・美術館ファン、リピーターの増加 | 友の会会員制度の見直し(メール会員の導入など) |
| (2) 教育普及(学校教育及び生涯学習) | |
| 学校団体の美術館利用の増加 | 学校教育活動への美術館観覧の組み込みの働きかけ |
| 様々な世代に対応する普及活動の実施 | 若者、シニア層など、多様な世代向け解説、鑑賞講座、創作体験教室等の普及プログラム検討 |
| ボランティアの養成 | ボランティア日曜トーク(おしゃべり鑑賞会等の工夫) |
| (3) 広報・PR | |
| 美術館へと誘う積極的なPR等の実施 | 県内企業や経済界向けPR 美術館巡りモデルコースの提案 |
| マスコミとの連携 | 美術館、展示作品、催しの内容紹介の充実 |
| ホームページ等の活用 | ホームページの充実 |
| (4) 無料空間(周辺環境を含む)の利用増加策 | |
| 入口、エントランスの改修 | 回転ドア撤去、受付移動、照明設備の改修 |
| オープンスペースの魅力向上 | ミュージアムショップオリジナル商品充実の検討 |
| 周辺環境やアクセスの改善 | 近代美術館と城南公園との段差解消等バリアフリー化の検討 |

<中長期の課題>（主なもの）

| 課 題 | 施 策 |
|-------------------------|---|
| (1) 展示 | |
| 常設展示「むずかしい」への対応 | 音声ガイド等情報機器の利用検討 |
| 常設展示「変化に乏しい」への対応 | 時系列による展示法変更の検討(新しい見せ方の工夫) |
| 展示施設設備の整備 | 現代の美術館にふさわしい照明設備、国際水準の温湿度、セキュリティ設備への更新検討 |
| (2) 教育普及(学校教育及び生涯学習) | |
| 学校団体の美術館利用の増加 | 情報通信技術を利用した遠隔授業等の検討 |
| 学習施設設備の整備 | 図書コーナー、映像プログラムの拡充 |
| (3) 広報PR | |
| 美術館へと誘う積極的PRの実施 | 広報プロフェッショナルの養成 「美術館で半日過ごす」など、多面的利用法の提案と効果的宣伝コピーの検討 |
| ホームページ等の活用 | インターネット(ブログ)の導入と活用の検討 |
| (4) 無料空間(周辺環境を含む)の利用増加策 | |
| オープン・スペースの魅力向上 | 喫茶コーナー拡充、レストラン等の検討 |
| 周辺環境やアクセスの改善 | 富山市科学博物館、城南公園との一体感ある環境整備の検討 |

魅力向上策の具体的な取組み

①平成 19 年度の具体的な魅力向上策

- ・ エントランスを改修し、気軽に入館できる環境整備
(入口自動ドアの改善、受付位置の変更、照明改善など)
- ・ ミュージアムショップの移設・拡張
- ・ 企画展PRの充実
(空港での案内掲示コーナーの設置、城南公園での催事案内サインの設置など)
- ・ ボランティアの充実 (県立 3 館共同ボランティア養成事業)

②平成 20 年度の具体的な魅力向上策 (新)「近代美術館らく楽魅力アップ事業」等)

- ・ 多言語による音声ガイドの導入 (日本語、英語、中国語、韓国語)
- ・ 常設展示を分かりやすく解説する「気軽にアートレクチャー」の実施
- ・ 小学生を対象に「教科書の作品 ここにあるよ 講座」の実施
- ・ 多様な世代に対応する「アトライフ楽しみ講座」の実施
- ・ 魅力ある大型企画展の開催 (日展 100 年展覧、A I Gコレクション展など)

《参考 1》観覧者数の推移 (単位：万人)

| 年度 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | 備考 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------------|-------------------------|
| 近代美術館 | 9.4 | 9.3 | 8.8 | 8.8 | ※8.4 | 過去最高は 13.2万人(H5) |
| 水墨美術館 | 14.2 | 13.7 | 18.2 | 21.3 | 26.3 (過去最高) | これまでの最高は 22.6万人(H11) |
| 計 | 23.6 | 23.0 | 27.0 | 30.1 | 34.7 | |

※改修工事のため約 1 か月間休館

《参考 2》県民からの公募による美術展の入場者数

| 区分 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | 備考 |
|-----------|----------|----------|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 県展 | 8,419 人 | 8,319 人 | 7,864 人 | 12,831 人 〔県民会館分 8,160 人〕 | ・昭和21年度から開始 ・プロへの登竜門 ・平成 19 年度から県立近代美術館を含め 3 会場で開催 |
| 越中アートフェスタ | | | 12,927 人 ※巡回展を含む (本展 7,163 人) | 14,948 人 ※巡回展を含む (本展 7,928 人) | ・平成 18 年度から開始 ・自由な作品の発掘 ・平面、立体の 2 部門 |
| 県女性美術展 | 3,487 人 | 3,166 人 | (廃止) | | ・H18 から越中アートフェスタに再編 |
| 勤労者美術展 | 3,203 人 | 2,360 人 | (廃止) | | ・H18 から越中アートフェスタに再編 |
| 合計 | 15,109 人 | 13,845 人 | 20,791 人 | 27,779 人 | |

㊦ 「ふるさと文学魅力推進検討委員会」について

文学に係る貴重な資料の散逸を防ぎ、県民に広く紹介するとともに、文学を通じてふるさと富山の愛着心を醸成するなど、富山の文学振興を図るため、「ふるさと文学魅力推進検討委員会」（会長：西頭富山大学学長）を設置し、今後の方策を検討している。

1. 具体的な検討項目

- ① ふるさとゆかりの文学作品を広く県民に紹介する方策
- ② ふるさとの未来を担う子供たちや若者の文学活動を振興する方策
- ③ 貴重な文学資料の散逸を防ぎ、収集・整理・保存するための方策
- ④ 図書館等の有機的な連携による文学資料の活用方策

2. 検討委員会の中間報告

基本的な方向性（H20.9 報告）

- ① 富山ゆかりの貴重な文学資料が散逸してしまう恐れがある現状や若い世代の活字離れの傾向を踏まえ、既設の図書館等と連携して、資料を収集、分析、保管する仕組みを構築すること
- ② 県民がふるさと文学に親しみ、学び、創り、発信することのできる機会の提供や必要な拠点づくりに努めること

3. スケジュール

第1回（6月） 設置の趣旨、現状の把握と検討課題の整理、今後の進め方

第2回（8月） 課題への対応策の検討

第3回（9月） 意見調整及び中間報告取りまとめ

＜10月 県民アンケート及びパブリックコメントの実施＞

第4回（12月） 審議内容の取りまとめ

＜12月または1月 答申＞

- 1 内山邸の歴史的・文化的な価値 ⇒ 平成10年に国登録有形文化財登録
内山邸は1868年（慶応4年）に建築され、
- ① 江戸時代の典型的な豪農屋敷の遺構をとどめている邸宅・庭園であり、
 - ② 郷土の開墾、農民生活、風俗文化などに関する文献や生活用品等の歴史的資料を多数所蔵している。
 - ③ 江戸期の農家で、生活や作業に当たったの当時の機能（蔵、作業場等）を残しているものとしては、県内随一である。
 - ④ 主屋は、数奇屋風の造りとなっており、近代和風建築の先駆けとして歴史的な価値が大きい。

○入館者数 H16：12,458人、H17：12,836人、H18：16,720人、H19：15,990人

2 内山邸の保存改修計画

- (1) 改修期間 平成17年～平成32年(16年間)
- (2) 全体事業費 約1億8千万円

ポイント

- ・ 1868年（慶応4年）建築後140年近くが経過し、全体的に劣化が著しいことから、全体を3期に分け、計画的に改修を行う。
- 第1期（H17～H20）：劣化が著しく、倒壊の恐れがあり、緊急的な修繕を要する箇所
- 第2期（H20～H22）：損傷著しいが、緊急性を伴わない箇所
- 第3期（H23～H32）：経年劣化が進み、長期的には改修が必要となる箇所
- ・ 改修に当たっては、職藝学院の実習教材に提供し、修繕工事に学生が参加することで文化財の伝統的技法の伝承と経費の節減を図る。
- ・ 建築業者の施行に当たっては、文化的な価値が損なわれないよう職藝学院の上野教授の監修（指導・助言）を得ながら進める。

3 内山邸文化の魅力発信事業

平成20年度
(予算：200万円)

茶会：27件
邦楽：4件
その他：51件
(10月末現在)

- ① 「夜桜鑑賞会」の開催（4月11日～13日）
桜の開花の時期に併せて夜間開放し、箏曲演奏とともにライトアップした夜桜鑑賞会を開催。
・ 期間中3日間で約4,200人が来館
「夜桜が日本建築にマッチし素晴らしい」と参加者から好評。
- ② 「月見鑑賞会」の開催（十五夜9月14日、十三夜10月11日）
仲秋の名月の時期に併せて夜間開放し、琵琶演奏や詩吟とともに月見鑑賞会を開催。
- ③ 「内山邸を題材とした作品展」「同巡回展」の開催（12月～）
富山大学芸術文化学部学生等による内山邸を題材とした絵画や写真などの平面作品をギャラリー機能を持つもみ倉等で展示。
また、これらの作品を県立文化ホール各館で巡回展示。
- ④ 内山邸保存修復工事の紹介（12月）
保存修復にかかるパネル展示や解説・説明会を実施し、伝統的な建築技法等の魅力を紹介。

㊦ 利賀芸術公園における事業について

利賀芸術公園の優れた舞台芸術空間とこれまでの活動実績を活かし、舞台芸術の創造・発信、人材育成、普及・教育、国際交流などの事業や、「演劇の聖地」にふさわしい環境の整備など、世界の舞台芸術の拠点づくりを推進する。

1 「利賀フェスティバル」の開催

(1) 「利賀フェスティバル 2008～SCOT サマー・シーズン～」の開催

「演劇の聖地」利賀の演劇祭にふさわしい世界一流の舞台芸術家や劇団を招聘・上演し、利賀から世界最新の舞台芸術を発信する。

- ・実施時期：8月9日（土）～8月31日（日）
- ・実施内容：世界一流の舞台芸術公演（SCOT4 作品、イリア、ロア）
連続シンポジウム〈現在をどう見るか〉開催

2 世界の舞台芸術の拠点づくり（舞台芸術特区 TOGA 構想）の推進

(1) 舞台芸術特区人材育成事業

- ・実施時期：7月～9月、1～3月
- ・事業主体：(財)舞台芸術財団演劇人会議
- ・実施内容：
 - ① 利賀サマー・アーツ・プログラム
 - 俳優コース：スズキメソッドマスタークラス、利賀演劇塾
 - 演出コース：利賀演劇人コンクール→演出家から俳優・舞台美術へ対象拡大
 - 総合コース：利賀インターゼミ（富大、全国の大学）、高校生演劇講習 等
 - 舞台芸術鑑賞会：利賀フェスティバル中高生等鑑賞会
 - ② ウィンタークラス：利賀演劇塾

㊦ (2) 利賀舞台芸術創造・発信事業

利賀を拠点に活動を再開した劇団 SCOT と共同して、優れた芸術環境を活用した利賀ならではの世界に誇れる舞台芸術を創造し、国内外に積極的にアピールする。

- ・事業主体：(財)富山県文化振興財団
- ・実施内容：(通年事業)
 - ① 創造事業
 - ・利賀芸術公園の自主企画作品の企画・準備、稽古、制作等
 - ・作品創造活動に使用する舞台設備の充実
 - ② 発信事業
 - ・利賀の舞台芸術の魅力を国内外に発信する積極的な公演活動等の支援
 - ③ 国際共同制作事業
 - ・日露共同制作作品の利賀公演、韓国との作品共同制作

(3) 利賀芸術公園定期公演（劇団 SCOT）開催事業

利賀芸術公園を拠点に活動する世界的劇団・劇団 SCOT の公演を定期的に行い、県民が世界的な質の高い舞台芸術を間近に見る機会を提供する。

- ・実施時期：平成 21 年 3 月（予定） 利賀創造交流館 等
- ・実施内容：劇団 SCOT 定期公演、鑑賞会の開催

㊦「第1回とやま世界子ども舞台芸術祭」の開催成果について

1 ねらい

- ①子どもたちの国際的な文化交流を促進し、子どもたちの視野を広げ新しい文化の創造に資する。
- ②世界三大アマチュア演劇祭のひとつとして定着させることを目指す。
- ③利賀の演劇と併せ、プロ・アマともに世界最高水準の舞台演劇の拠点を目指す。

2 開催概要

- (1) 期 日 平成20年7月31日(木)～8月5日(火) 6日間
- (2) 会 場 富山市、高岡市
- (3) 出演団体 16カ国 72団体(海外18団体、県外10団体、県内44団体)
- (4) 延べ観客数 約1万4千人(前回(2004年のアジア太平洋子ども演劇祭)⇒約1万人)
- (5) 内 容
 - ・舞踊やパントマイム、ミュージカル、民話劇など子どもたちの多彩な舞台公演
 - ・舞台芸術に関する障害者フォーラムやアジア演劇サミット
 - ・芸術文化体験や国際理解などのワークショップ

3 今回の成果

- (1) 国際色豊かで多彩な舞台芸術を富山から国内外に発信
子どもたちの国際色豊かで多彩な舞台芸術が富山から国内外に発信され、芸術文化の振興に大いに寄与した。
- (2) 子どもたちの視野を世界に広げる貴重な機会
世界の同世代の子どもたちの国境の壁、言葉の垣根を超えた友情や異文化の理解など、参加した子どもたちの視野を世界に広げる貴重な機会となった。
- (3) 国際連盟の役員から高く評価
国際アマチュア演劇連盟のオドワイヤー会長やモナコ世界演劇祭のセラリオ総裁等から今回舞台芸術祭の企画・運営、富山の舞台芸術の水準の高さに高い評価・賞賛をいただいた。
- (4) 人材・運営ノウハウ等の基盤が根づいた
子どもたちの文化活動を支えるボランティアの輪が広がるなど、県内文化関係者をはじめとする人材や運営ノウハウ等の基盤が根づいた。
※ 参加ボランティア：企画・運営協力300人、通訳協力70人

4 成果の活用・具体的な取組み

上記の成果をもとに、人材や運営ノウハウをしっかりと継承し、さらに充実を図り、世界三大アマチュア演劇祭のひとつとして定着するように努めていくための具体的な取組みとしては、次のとおり。

- (1) 国際的な知名度の向上
国際アマチュア演劇連盟の総会や理事会などの機会を通じて、その成果を広くPRし、国際的な知名度をあげる。
- (2) 世界の演劇祭との結びつきの強化や舞台芸術レベルの向上
世界の演劇祭への参加を通じて、これらの演劇祭との結びつきを強めるとともに、富山の子どもたちの舞台芸術のレベルの向上を図る。
- (3) 人材や運営ノウハウの活用
今回の舞台芸術祭で培った人材や運営ノウハウを、富山で開催する他の国際文化交流事業に活用する。

【参考1】世界演劇祭の比較

| | モナコ世界演劇祭 | 世界こども演劇祭 (ドイツ・リンゲン) | 世界こども舞台芸術祭 (富山) |
|-------|----------|------------------------|--------------------|
| 開始年度 | 1957年 | 1990年 | 2008年 |
| 開催頻度 | 4年に1回 | 4年に1回 | 4年に1回 |
| 対象年齢 | 年齢問わず | こども | こども |
| 対象分野 | 演劇 | 演劇 | 舞台芸術(演劇、音楽、舞踊) |
| 参加団体数 | 24団体 | 24団体 | 28団体(県内除く) |

【参考2】国際アマチュア演劇祭の開催実績

| | | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------|
| 昭和 58(1983)年 | 富山国際アマチュア演劇祭 TATIF'83 | (置県百年) | 12カ国 15団体 |
| 昭和 60(1985)年 | 富山国際高校演劇祭 TATIF'85 | (国際青年年) | 11カ国 14団体 |
| 平成元(1989)年 | 富山国際青年演劇祭 TATIF'89 | (富山・高岡両市市制百年) | 24カ国 27団体 |
| 平成 4(1992)年 | 富山国際アマチュア演劇祭 TATIF'92 | (第1回ジャパンエキスポ富山 JET92) | 24カ国 26団体 |
| 平成 8(1996)年 | 富山国際演劇祭、国際こども演劇祭 | (第11回国民文化祭とやま'96) | 23カ国 26団体 |
| 平成 12(2000)年 | 2000年とやま世界こども演劇祭 | (2000年国体) | 23カ国 23団体 |
| 平成 16(2004)年 | アジア太平洋こども演劇祭 | | 16カ国 19団体 |

【参考3】前回の演劇祭との比較

| | 今回(第1回とやま世界こども舞台芸術祭) | 前回(アジア太平洋こども演劇祭) |
|----------|--|-------------------------|
| 参加国数・団体 | 16カ国 72団体(海外18、県外10、県内44) | 16カ国 36団体(海外17、県内19) |
| 参加者数 | 約2,400人 | 約1,600人 |
| 延べ観客数 | 約1万4千人 | 約1万人 |
| 参加ボランティア | 約400人(うち通訳70人、中高生28人) *他に地元自治会の協力が40人 | 約400人(うち通訳52人) |
| 事業費 | 精算中(概ね前回並み) | 約1億4千万円 |
| 県費補助金 | 60,000千円 | 55,000千円 |

【参考4】利賀フェスティバルの観客数の状況

| 年 度 | 入場者数 | 参加国 | (参考)利賀村の人口 |
|--------------|------------|-------|------------|
| 1982 (昭和 57) | 約 13,000 人 | 6 カ国 | 1,276 人 |
| 1983 (昭和 58) | 約 4,000 人 | 3 カ国 | 1,250 人 |
| | ） (略) | | |
| 2006 (平成 18) | 約 11,000 人 | 4 カ国 | 830 人 |
| 2007 (平成 19) | 約 6,800 人 | 6 カ国 | 807 人 |
| 合 計 (26 年間) | 約 26.3 万人 | 24 カ国 | |

「とやま室内楽フェスティバル 2008 - in memory of Szymon Goldberg」 の開催について

1 趣旨

富山を終焉の地とした 20 世紀を代表する世界的ヴァイオリニスト、シモン・ゴールドベルクをしのび、その縁に連なる音楽家たちがそれぞれの思い出を持ち寄りながら進めるセミナー主体の音楽祭「とやま室内楽フェスティバル 2008 - in memory of Szymon Goldberg」を開催した。実施にあたっては、実行委員会を組織し、富山県内企業や団体、個人、地方自治体の支援協力を得たところである。

2 開催時期

2008 年 9 月 22 日（月）から 10 月 2 日（木）まで（11 日間）

3 主催者等

- (1) 主催 とやま室内楽フェスティバル実行委員会（委員長 高木繁雄）
- (2) 共催 富山県、北日本新聞社、北日本放送
- (3) 協賛 富山県内主要企業等
- (4) 後援 富山市、魚津市、県内文化関係団体、マスコミ各社 等
- (5) 協力 (社)企業メセナ協議会、若林工房、富山ガラス工房

4 事業内容

(1) セミナー事業

優れた室内楽の若手演奏家養成を目的とするセミナーを実施。対象は音楽大学のマスタークラス程度等とし、ゴールドベルク縁の演奏家等が直接指導を行った。一部レッスンや公開講座は一般に開放し、またセミナーの成果を披露するコンサートを 2 日間にわたり開催した。

＜講師＞ ヴェスナ・スタンコービチュ（ヴァイオリン）、オーロール・カニー（ヴィオラ）、
ピエール・ドゥマンジェ（チェロ）、パトリック・ジグマノフスキー（ピアノ）

＜会場＞ 新川学びの森・天神山交流館、新川文化ホール（小ホール）

（新川学びの森・天神山交流館：旧洗足学園魚津短期大学校舎を活用した魚津市の生涯学習施設。

多くの練習室や優れた音響とコンサートピアノを擁する合唱室、合宿練習を可能とする宿泊施設などの設備があり、音楽セミナーや練習の場として利用されることが多い。）

＜受講者＞

24 名（弦楽四重奏 3、ピアノトリオ 2、ピアノデュオ 3）

(2) コンサート事業

ゴールドベルク夫妻のゆかりの場所を中心に、セミナー講師を務める演奏家たちによるコンサートを開催した。

＜会場＞ 立山国際ホテル（チャペル）、富山市民プラザ（アンサンブルホール）
富山県立近代美術館（ロビー）、高岡文化ホール（多目的小ホール）

世界文化遺産登録候補の調査・審議結果について

昨年、県と地元市町が共同で文化庁へ提案した世界文化遺産登録候補「近世高岡の文化遺産群」及び「立山・黒部」について、9月26日（金）に文化庁で開催された文化審議会文化財分科会での審議の結果、主題の再整理等を通じて更なる比較検討が必要という評価で、「暫定一覧表候補の文化資産」となった。

1 文化庁の文化審議会文化財分科会での評価

(1) 「近世高岡の文化遺産群」の評価

〈総合的評価〉

近世都市が商工業都市へと変容する過程を伝える資産として、価値は高い

〈課題等〉

- ・世界史的・国際的な観点から顕著な普遍的価値の証明が不十分
- ・国内外の同種資産との比較検討を通じた適切な主題設定や資産構成の検討
- ・文化財の指定又は追加指定

(2) 「立山・黒部～防災大国日本のモデルー信仰・砂防・発電ー」の評価

〈総合的評価〉

自然災害から暮らしを守り続けてきた人間の営為を刻む諸要素が特定地域に集中する資産として、価値は高い

〈課題等〉

- ・世界史的・国際的な観点から顕著な普遍的価値の証明が不十分
- ・砂防関連資産等の国内外の同種資産との比較検討を通じた適切な主題設定や資産構成の検討
- ・山岳信仰関連資産と砂防関連資産の関係の研究
- ・文化財の指定又は追加指定

2 今後の対応

- (1) 文化庁の指導・助言をいただきながら詳細な課題等を整理
- (2) 白岩砂防堰堤等の国重要文化財指定の推進や勝興寺などの保存修理事業の着実な推進
- (3) 関係市町、「高岡市民の会」や「立山・黒部ゆめクラブ」などとの連携・協力しながら、引き続き登録に取り組む

(参考) 全国の様況

- ①地方公共団体からの提案件数：32件
- ②審議結果：世界遺産暫定一覧表記載文化資産 5件
世界遺産暫定一覧表候補の文化資産27件

芸術分野別の文化振興施策の参考データ

1 演劇等の舞台芸術の分野 ⇒ プロ・アマともに世界最高水準の舞台芸術拠点を目指す

《利賀芸術公園（プロ演劇分野）》

世界に開かれた舞台芸術の拠点づくり ～利賀～

舞台芸術特区TOGA(18年3月全国初の認定)

特区の内容: 劇場での誘導灯の設置義務の緩和(消防法)

➡ H20.5全国展開へ

日露文化フォーラムの開催(18年8月)

- ・日露の文化交流の意見交換を行う委員会を開催
- ・バレエ、演劇、美術展など多彩な事業の実施 (約1万2千人の観客)

H20年度利賀芸術公園事業

世界的に高い評価を得ている利賀芸術公園の優れた芸術環境とこれまでの国際的な活動実績を活かし、世界に開かれた舞台芸術の拠点づくりを推進する。

- 「利賀フェスティバル」の開催(8月9日～31日)
劇団SCOT作品、ロシア、イタリア劇団舞台公演、シンポジウム
- 舞台芸術特区人材育成事業(7～9月、1～3月)
【俳優コース】スキ・メソッド・マスタークラス、利賀演劇塾
【演出コース】演劇人コンクール
【総合コース】利賀インター・ゼミ、大学生創作ワークショップ、高校生演劇講習、小学生舞台芸術講座
- 舞台芸術創造・発信事業(通年)
H20年に劇団SCOT(世界的演出家・鈴木忠志氏主宰)が活動再開、夏・冬定期公演
日露共同制作作品の利賀公演(ロシア・タチカ劇場)、韓国との作品共同制作
- 中高生向け舞台芸術鑑賞会の開催(夏・冬)



《国際アマチュア演劇祭》

第1回とやま世界こども舞台芸術祭

ねらい

- ① 子どもたちの国際的な文化交流を促進し、子どもたちの視野を広げ新しい文化の創造に資する
- ② 利賀の演劇と併せ、プロ・アマともに世界最高水準の舞台演劇の拠点をを目指す

概要

- テーマ 私たちが未来をきづく
- 期日 2008年7月31日(木)～8月5日(火)
- 会場 富山市、高岡市
- 主催 とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会
- 参加団体 世界5大陸 15カ国18団体
国内 9都道県10団体 } 2,000名を越える
県内 44団体 } 子どもたちが出演
- 内容 ①子どもたちの舞台公演
②舞台芸術に関するフォーラム
③芸術文化体験・国際理解などのワークショップ



H19.2 県民会館ホール トマトクッキング 夢の時J(和田朝子70歳)

| | モナコ世界演劇祭 | 世界こども演劇祭 (独・リンゲン) | 世界こども舞台芸術祭 (富山) |
|-------|----------|----------------------|--------------------|
| 開始年度 | 1957年 | 1990年 | 2008年 |
| 開催頻度 | 4年に1回 | 4年に1回 | 4年に1回 |
| 対象年齢 | 年齢問わず | こども | こども |
| 対象分野 | 演劇 | 演劇 | 舞台芸術(演劇、音楽、舞踊) |
| 参加団体数 | 24団体 | 24団体 | 28団体 |

過去7回の国際的なアマチュア演劇祭の開催実績が高く評価され、世界5大陸が参加する芸術祭が実現

- ・国際アマチュア演劇祭(1983年)
- ・世界こども演劇祭(2000年)
- ・アジア太平洋こども演劇祭(2004年)など

世界三大アマチュア演劇祭のひとつとして定着させることを目指す

2 美術分野 ⇒ 全国トップレベルの美術鑑賞環境を目指す

<参考データ>

(1) 人口100万人あたりの登録博物館数 (H17)

富山県 31.5館 (全国2位) ⇒ 全国平均9.4

(全国1位 長野県 34.6館、全国3位 山梨県 30.5館)

(2) 県立美術館の観覧者数の推移

| 年度 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | 備考 |
|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|-------------------------|
| 近代美術館 | 9.4 | 9.3 | 8.8 | 8.8 | ※8.4 | 過去最高は 13.2万人(H5) |
| 水墨美術館 | 14.2 | 13.7 | 18.2 | 21.3 | 26.3 (過去最高) | これまでの最高は 22.6万人(H11) |
| 計 | 23.6 | 23.0 | 27.0 | 30.1 | 34.7 | 約150% (H19/H15) |

※ 改修工事のため約1か月間休館

(3) 公募による美術展の入場者数

| 区分 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 | 備考 |
|---------------|---------|---------|----------------------------------|----------------------------------|--|
| 県展 | 8,419人 | 8,319人 | 7,864人 | 12,831人 〔県民会館分 8,160人〕 | ・昭和21年度から開始 ・プロへの登竜門 ・平成19年度から県立近代美術館 を含め3会場で開催 |
| 越中アート フェスタ | | | 12,927人 ※巡回展を含む (本展7,163人) | 14,948人 ※巡回展を含む (本展7,928人) | ・平成18年度から開始 ・自由な作品の発掘 ・平面、立体の2部門 |
| 県女性美術展 | 3,487人 | 3,166人 | (廃止) | | ・H18から越中アートフェスタに 再編 |
| 勤労者美術展 | 3,203人 | 2,360人 | (廃止) | | ・H18から越中アートフェスタに 再編 |
| 合計 | 15,109人 | 13,845人 | 20,791人 | 27,779人 | 約180% (H19/H16) |

(4) 世界5大ポスター展の開催状況

| | 応募 | | | 入選 | | |
|-------------------------------------|-------|-------|--------|-------|-----|------|
| | 国(地域) | 人数 | 点数 | 国(地域) | 人数 | 点数 |
| 第8回世界ポスタートリエンナーレ トヤマ (平成18年度開催) | 52 | 1,431 | 3,632 | 32 | 299 | 420 |
| 第20回ワルシャワ国際ポスタービ エンナーレ 【ポーランド】 | 47 | 909 | 2,383 | 40 | 438 | 648 |
| 第22回ブルノ国際グラフィックデ ザインビエンナーレ 【チェコ】 | 46 | 約700 | 約3,000 | 27 | 109 | 約450 |
| 第15回ラハティ国際ポスタービエ ンナーレ 【フィンランド】 | 40 | — | 1,683 | — | — | 243 |
| 第8回メキシコ国際ポスタービエン ナーレ 【メキシコ】 | 約60 | — | 約4,000 | — | — | 約300 |

3 その他の分野（音楽・生活文化など） ⇒ 多くの県民が参加し、一層活発な展開を進める

<参考データ>

(1) 文化ホールの人口100万人あたりの設置数 (H17)

富山県 26.1館 (全国5位) ⇒ 全国平均 14.8

(2) 県立文化ホール利用率

| | | H16年度 | H17年度 | H18年度 | H19年度 |
|---------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 県民会館 | ホール | 61.0 | 60.2 | 56.5 | 57.0 |
| 教育文化会館 | ホール | 50.9 | 43.7 | 57.7 | 58.2 |
| 高岡文化ホール | 大ホール | 62.5 | 59.4 | 63.1 | 67.4 |
| | 多目的小ホール | 86.5 | 81.8 | 84.9 | 70.7 |
| 新川文化ホール | 大ホール | 53.0 | 64.2 | 56.5 | 58.6 |
| | 小ホール | 55.2 | 54.6 | 52.7 | 56.2 |
| 県民小劇場 | 多目的小ホール | 50.7 | 57.5 | 55.9 | 62.1 |
| 合計 | | 60.0 | 60.4 | 60.9 | 61.4 |

(3) 生活文化関係

■ 人口当たりの行動者数の本県順位 (H18 総務省・社会生活基本調査から)

- | | | | |
|------|----|------|-----|
| ① 茶道 | 5位 | ② 華道 | 8位 |
| ③ 書道 | 9位 | ④ 邦楽 | 16位 |

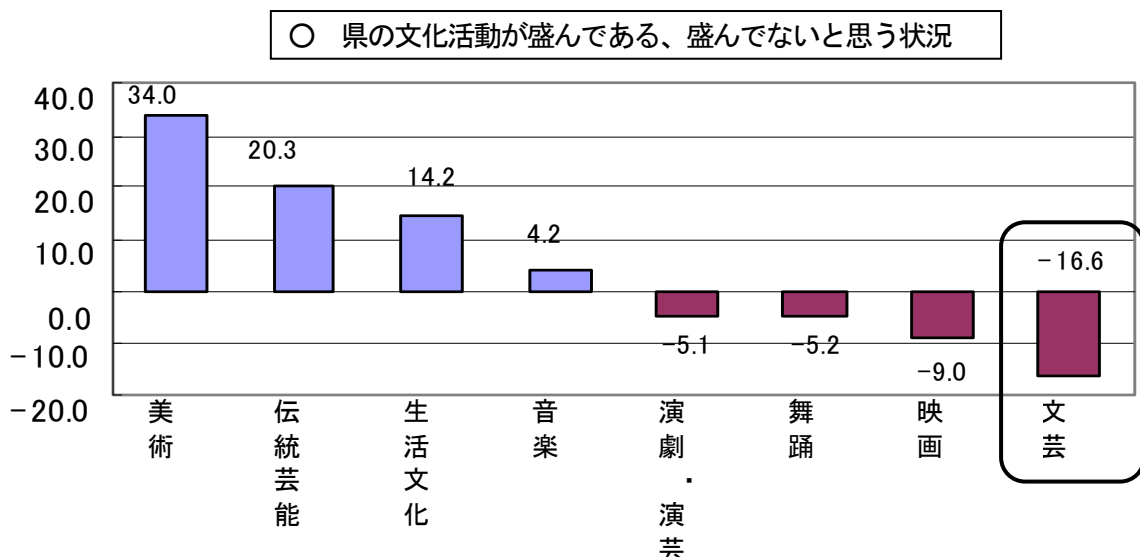
<鑑賞・観覧関係>

- | | | | |
|--------------|-----|-------------|-----|
| ① 美術鑑賞 | 8位 | ② 映画鑑賞 | 11位 |
| ③ 演芸・演劇・舞踊鑑賞 | 17位 | ④ 音楽会等ポピュラー | 26位 |
| ⑤ 音楽会等クラシック | 32位 | ⑥ スポーツ観覧 | 36位 |

4 新たな展開 ⇒ ふるさと文学の振興

文学に係る貴重な資料の散逸を防ぎ、県民に広く紹介するとともに、文学を通じてふるさと富山の愛着心を醸成するなど、ふるさと文学の振興に積極的に取り組みたい。

<文化に関する県民アンケート調査 (平成17年8月実施)>



子どもに関する主な芸術文化施策の参考データ

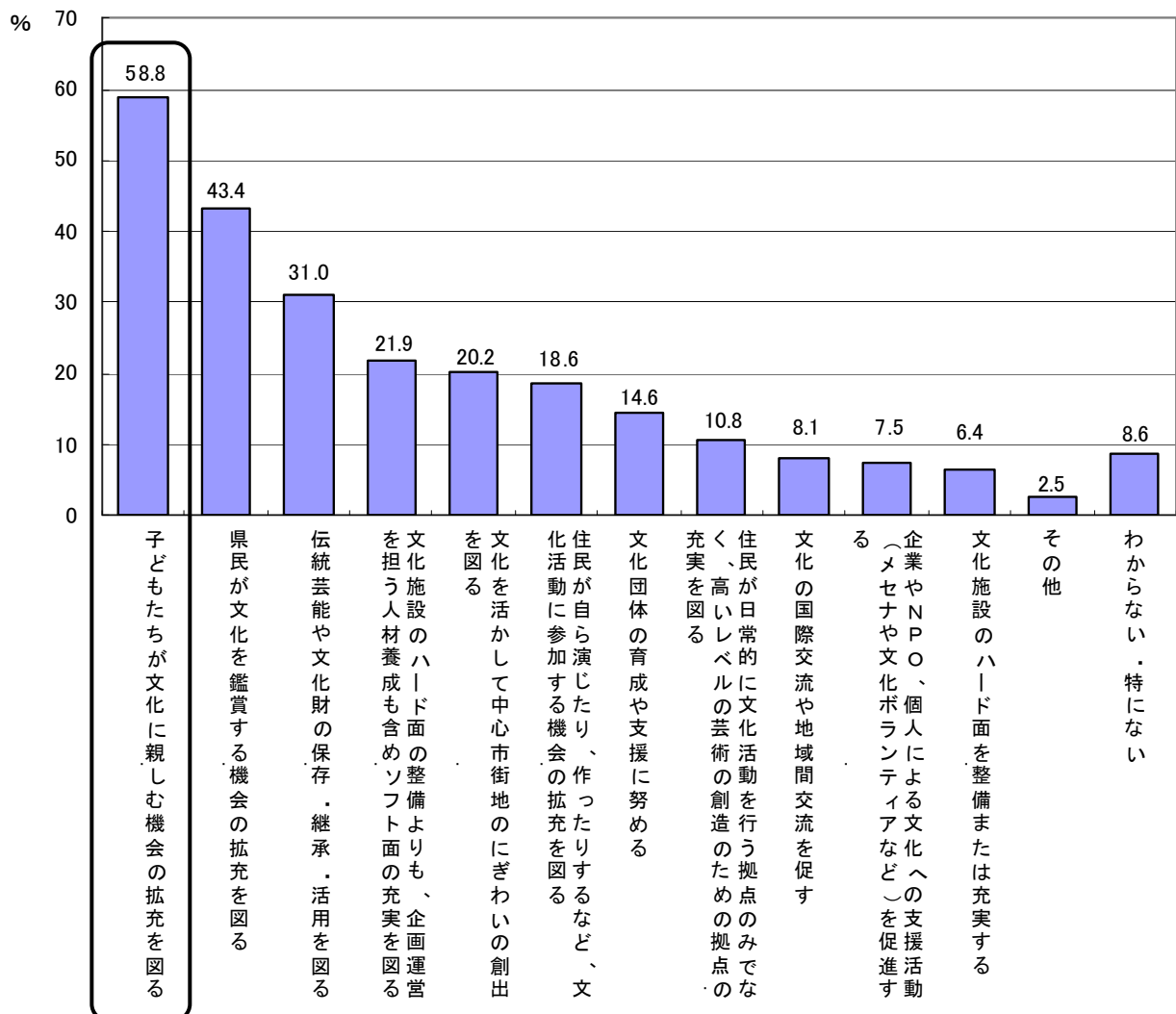
1 文化に関する県民アンケート調査結果 (H17.8 実施)

子どもたちにとって鑑賞や創作活動が大切であると考えている県民の割合は、自らが取り組むことが大切であるとする割合より高く、また、県が重点を置くべき施策として、次代を担う子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図ることをあげる割合が最も多い。

□ 文化に関する意識

| | 自ら | 子どもたち |
|---------------------------------------|-------|-------|
| 文化の鑑賞をすることは非常に大切、ある程度大切だと答えた人の割合 | 88.2% | 94.9% |
| 演じたり、作ったりする文化活動は非常に大切、ある程度大切だと答えた人の割合 | 55.4% | 84.7% |

□ 文化振興を通じて「元気とやま」を創造するために重点を置くべき施策



2 これまでの主な施策

| 区分 | 事業名 | 事業内容 | H20 予算ベース |
|----------------------|----------------------|---|--------------|
| 16年度 以前 (主なもの) | 学校一日美術館の実施 | 学校を会場とし、近代美術館の収蔵作品を展示公開（年10校程度） | 1,045 |
| | 芸術文化指導者招へい事業 | 海外・全国レベルの指導者による指導 | 5,670 |
| | 県青少年美術展の開催 | 青少年に美術作品の発表の場を提供 | 2,290 |
| | 県こどもフェスティバルの開催 | 子どもの創作活動の成果を発表・展示 | 1,300 |
| | スクールバンド育成事業 | プロによる中高生対象の吹奏楽指導 | 1,000 |
| 17年度 新規 | 美術館観覧料等の通年無料化 | 小中高生や障害者について、企画展示・常設展示ともに無料化 | — |
| | 県立文化ホールのホール使用料減免 | 練習のための利用、子どもが参加する行事等について減免 | — |
| | こども芸術文化活動支援事業 | 県民自らが企画・提案する子どもの鑑賞・創造活動を支援 | 900 |
| | 芸術文化アドバイザー事業 | 音楽・演劇・洋舞等の指導者を学校や地域に派遣 | 167 |
| 18年度 新規 | 日露文化フォーラムの開催 | 中高生約1,000人を鑑賞会に招待 | (3,000) |
| | こどもバレエ団遼寧省派遣事業 | 県内バレエ団が遼寧省で合同研修 | 500 |
| | いきいき文化財博士活用推進事業 | 文化財ボランティアを活用し、子ども向けガイドリーフレットを作成 | 300 |
| 19年度 新規 | 中高生舞台芸術鑑賞会開催事業 | 利賀フェスティバルにおける世界一流の公演を鑑賞する中高生向け鑑賞会の実施 | 5,000 |
| | とやまの芸術家発信普及事業 | 県内芸術文化団体による子ども、高齢者、障害者のための公演 | 6,500 |
| | みんなのアートミュージアム事業 | 近代美術館と学校が連携し、児童生徒が作品を制作し発表（年8校程度） | 5,398 |
| 20年度 新規 | 第1回とやま世界こども舞台芸術祭の開催 | 富山と世界5大陸の子どもたちが競争する舞台芸術祭に対する支援 | 67,000 |
| | ハンガリー友好交流事業 | 第23回ベラ・バルトーク国際合唱コンクールに生徒を派遣 | 2,500 |
| | 「教科書の作品“ここにあるよ講座”の実施 | 近代美術館において、小中学生を対象に、教科書掲載作品と実物を見比べる講座を実施 | 400 |
| | 「親子でワークショップ」の実施 | 近代美術館において、親子が一緒になって作品制作に取り組む | 150 |

※ カッコは単年度事業